

社 報



中3日でコンクリート

ある機会がありまして、名古屋の大工さん（型枠会社の社長さん）と会いました。ある材料屋さんの紹介で、名古屋に中3日でコンクリートを打っている現場があると聞き、半信半疑でその社長さんにお会いしました。

当日はわざわざ名古屋から大阪に来て、親切にいろいろと説明をしてくれました。説明はパソコンで映像をたくさん用いてわかりやすいものでした。

しかしながら、百聞は一見にしかず、ということで、4月の27日に当社の竹島・浦谷の両部長が静岡まで出張して現場を見学してきました。ホテルの現場でしたが11階建てを2ヶ月で1階から11階のコンクリ打設まで行っていました。目からウロコのような話ですが、実際にやっている話です。さあ、私達にはできるのでしょうか？

事務所開き御礼

4月9日（金）の事務所開きには大勢の方にご参集いただきありがとうございます。おかげをもちまして、翌日の4月10日には無事に引越しも終了し、12日より新事務所で営業を始めております。これからもお気軽にお立ち寄りくださいませ。

職人の「ころ！」

職人の「ころ」とは「モノづくりのころ」です。世の中にはモノづくりに関わっている人が大勢います。その中で、モノづくりの心を持つということが、どういう意味を持つのかを、一番はっきりと示しているのが、伝統工芸の職人であると思うのです。

彼らのスゴイところは、修行期間の長さもすごいのですが、やはり一流の職人ともなると作家と呼ばれ、作品が売れるということだと思います。作品を売って生計を立てるということは、本当に大変なことであると予想できます。

作品が売れなければ1円にもならないとすれば、安易な妥協などしておれません。これくらいで良いと少しでも手を抜けば、作品は売れなくなってしまうでしょう。その危険をひたすら回避するには妥協することなく、ただひたすらに作るということなのです。

伝統工芸の職人と建設職人は同じ職人でも、なんとなく違うような気がします。しかし、同じ職人でも住む世界が違えば、考え方も生活の手段も違うわけで、伝統工芸の職人が優れていて、建設職人が優れていないというわけではありません。

建設職人にも技術を磨き、修練を重ね続ける立派な人は大勢います。ただ、それが社会の人には見えないだけで、もっと高い評価を得て当然なのですが、その一方で

自分の腕を磨くのをやめ、食べるために苦心している職人も建設職人に多いことも確かです。

しかし、職人と名がつくからには一生懸命に腕を磨いてあたり前です。腕を磨かない職人は職人ではありません。最近、建設現場では職人のことを作業員と呼ぶことが多くなってきてます。ただ作業をするだけの人を作業員と言うのでしょうか。作業をするには当然、知識や技能が必要です。作業員も技能者であることは間違いないのです。でも職人とは呼ばれません。その差は何でしょうか。

建設業にはいろいろな問題があって、きれいごとばかりではありません。しかし、口実を並び立てて文句を言っても仕方ありません。私達は私達に出ることをこなしそれを評価してもらうことしか出来ないのです。それを、もっと良い評価をしるというより、私達は黙って良い仕事をするように努力するしかありません。

作業員と呼ばれる建設職人ですが、職人さんとさん付けで呼ばれるようになるためには、私達が腕を磨き続けるのです。

職人とはいくつになっても腕を磨き続ける人のことを言うのです。作業員とはきっちり区別される、社会になくってはならない存在であるのです。

難しいね「整理整頓！」

整理整頓を実行するには、ある基準を決めて、それを守るようにしなければなりません。その基準作りが難しいと言いました。そして、多くの場合は、基準を決めずに精神論で片付けをしようとして、いつのまにかウヤムヤになっていくことが多いようです。

ホント！難しいですね。「整理整頓」こうしたら整理整頓がうまくいく、というやり方はないものなのでしょうか。きれいな現場はなぜきれいなのでしょう？

現状で言えば、職長さんが口やかましく指示をしているところでしょうか。あるいは、職長さんが言わずとも、みんなが自主的に整理整頓を行い、十分なレベルまで達しているのでしょうか。

きれいに片付いた現場からは、良い仕事生まれるはず。良い仕事をしようとする心意気なら当社が他社に負けることなど、絶対にあってはならないことです。

安全成績（H16年度）

■ 現場災害 H16.1.1-H16.3.31
重大災害-----0
休業災害-----0
不休災害-----0
物損災害-----0
その他-----0
合計---0

■ 交通災害 H16.1.1H16.3.31
人身災害-----0
物損災害-----0
合計---0